

幸福を、平和を、豊かな心を、カンボジアの友と分かち合おう

Angkor Wat

アンコールワット

発行日:2024年(令和5年)2月1日

会報 第133号

特定非営利活動法人(NPO法人)

21世紀のカンボジアを支援する会

《AAC21》ASSOCIATION OF AID FOR CAMBODIA IN 21 CENTURY

【東京本部】〒176-0011 東京都練馬区豊玉上2-25-7-203
TEL:03-3991-2854 FAX:03-3557-1213
E-mail:info@aac21.net【カンボジア事務所】Royal park condo, Street 608, Toul kok,
Phnompenh, Cambodia
(855) 17-599-707【ホームページ】 [カンボジア支援](#) [検索](#)【公式ブログ】 [メコンの風に吹かれて](#) [検索](#)

～ 集合写真寄贈プロジェクト20年 ～

遠藤啓さんが手弁当で生徒たちに写真をプレゼント

10月11日～11月9日、本会の専属アマチュアカメラマン、遠藤啓さん(静岡県在住の会員)は根岸理事長とともにカンボジアを訪問、諸活動を行った。

とりわけシェムリアップに滞在中3つの小学校を訪問、18クラス合計約700人の生徒たちの集合写真を撮影し、その後写真を届けた。これにかかる写真のプリント代等、すべて遠藤さんの手弁当だ。

この活動は2003年に開始、丁度20年の節目を迎えた。遠藤さんは「カンボジアの子どもたちの写真を多く撮影しているのは多分私ではないかと思う。あと何年続けられるか分からないが、ともあれ今まで協力してくれた多くの皆さんに感謝です」と話している。



子どもたちの写真を撮り続けて20年

シェムリアップで小学校校舎建設着工式



仏式の着工式、村人も出席

10月27日、シェムリアップ州の小学校で校舎の着工式が行われ、根岸理事長、鈴木春男理事、遠藤啓会員が出席した。

校舎は「世界の恵まれない地域に小学校を作る会」(新潟市・石川幸夫代表)の資金協力によるもので、今年の3月下旬に行われる贈呈式には、日本から沢山の支援者が出席する予定。

着工式には、地元の村人や生徒たちなど約100人が出席、仏式(日本の地鎮祭のようなもの)で行われた。

物価高騰と円安の影響を受け2教室のみの校舎だが、生徒が少ない小学校なので対応は充分可能。完成が待ち遠しい。

悪路との戦いは一生の思い出になりました

10月11日～11月9日、約1カ月間カンボジアに滞在しました。

本会と連携し、カンボジアに小学校の校舎を建設している「世界の恵まれない地域に小学校を作る会」(新潟市・石川幸夫代表)の資金協力のもと、カンボジアのシェムリアップ州に小学校の校舎を作ることが決まり、10月27日に建設工事の着工式を行いました。根岸のほかに鈴木春男理事、遠藤啓さんが出席しました。

校舎建設を予定している小学校まで雨季のため道路がぬかるみ、車では行けないことは事前に聞いていましたが、車の代役である耕運機でさえ想像を超える悪路に度々立ち往生、途中からバイクに乗り換えて小学校に着きました。2時間半の悪戦苦闘でした。やっと着工式の会場に着くと子どもたちや村人が

首を長くして待つており、疲れが吹き飛ぶほどの大歓迎を受けました。途中で引き返す選択肢もありましたが、何とか辿り着いて本当に良かったです。

さすがに帰路は村の警察官がバイクで送ってくれましたが、それでも悪路には変わらず、舗装道路まで揺られること1時間半、最後は気力と体力の勝負になりました。

70過ぎのおじいさんには酷な体験でしたが、何とか生還することができました。行かねばならぬ・やらねばならぬ状況になれば人は何でもできることを学び、良い人生経験になりました。

カンボジアはその後乾季になり、ぬかるんだ悪路も建設業者がきれいに修復してくれ、今年3月に予定している校舎の贈呈式には気持ちよく出席できるとでしょう。



数年ぶりにバイクの後ろに乗りました

NPO法人 21世紀のカンボジアを支援する会
理事長 根岸恒次

「札幌ポブラライオンズクラブ」が、ぞうりを寄贈

昨年3月、「札幌ポブラライオンズクラブ」(札幌市・芳賀由治会長)が校舎を寄贈した「トロペアントレアン小学校」(クラチエ県チェトボレイ郡・生徒数=250人)を10月31日に根岸理事長と現地スタッフが訪問、生徒たち全員にぞうりを寄贈した。同ライオンズクラブの資金提供によるもの。

現地スタッフが生徒たち全員の足のサイズを事前に調べ、それに合ったぞうりをプノンペンで購入し持参した。

生徒たちは、新品のぞうりを大事に抱えて家路に向った。



ぞうりをもらい喜ぶ生徒たち

カンボジアの子どもたちをサポートしてください

クメール教育里親会員募集

長かった内戦が終わって平和になったカンボジアですが、国の復興はなかなか進まず、多くの人は貧困に苦しんでいます。特に農村では、貧しかったり親を亡くしたりして学校へすら行けない子どもや、学校へ行けても途中でやめてしまう子どもが後を断ちません。

本会では、農村の子どもたちが学校へ行けるようにと、教育資金をサポートしてくれる里親さんを募集しております。

思えば78年前、敗戦して焦土となった日本を救ってくれたのは、諸外国からの援助でした。カンボジアも食料援助をしてくれました。日本の子どもたちもその恩恵を受け学校に行けるようになりました。豊かになった私たちが、今度は困っているアジアの子どもたちを支援する番です。

※お友達グループや職場など、グループ単位でサポートしていただくこともできます。

【教育里親会費】 子ども1人につき 1年間3万円。

(活動のための諸費用含む)

- ・子どもへの直接支援額を高めるよう努力しております。
- ・一括納入、分割納入(毎月、年2回)のどちらでも可。
- ・所定の郵便振替用紙を使いお振込みください。

【支援する期間】

- ・少なくとも子どもが学校を卒業するまでの間、支援して頂けたら幸いです。やむを得ず子どもが中退する場合もありますが、その際は別な子どもの支援をお願い申し上げます。

【子どもとの交流】

- ・子どもからは概ね6ヶ月に1度、近況を報告する手紙(日本語に翻訳)と写真が届きます。
- ・里親から手紙、プレゼントを届けることができます。(子どもから写真とお礼の手紙が届きます)

里親さんありがとう



Facebook に本会の活動を随時投稿しています

二つの小学校に手押しポンプ式井戸を寄贈

11月1日、根岸理事長と現地スタッフが二つの小学校を訪問し、井戸贈呈式を行った。

1校目は「アンサッタ小学校」(コンボンスプー県ソムロン郡・生徒数11521人)、武藤和義様(83歳・康代様(75歳)(長崎県長与町在住の里親会員)が、結婚53周年を記念して寄贈してくれた。

2校目は「プレイプチュック小学校」(コンボンスプー県ソムロン郡・生徒数11274人)、「かそけしF川崎・秋田」の皆さんがバザーの収益金を充てて寄贈してくれた。井戸の深さは平均して40メートル、念のため水質検査を実施していて、安全な水を提供している。



武藤和義様・康代様寄贈の井戸



「かそけしF川崎・秋田」様寄贈の井戸

幼稚園併設の小学校に遊具を寄贈

カンボジアの小学校では幼稚園併設が義務化されたようで、園児たちが遊べる遊具寄贈の要望が増えてきた。

10月17日と18日の二日間、現地訪問中の根岸理事長、佐々木英介理事、里親会員の五井瑞枝さんが2つの小学校を訪問して贈呈式を行った。

1校目は「ボーセット小学校」(コンボンスプー県ボーセット郡・生徒数11495人)、「カンボジア教育支援西予」様(愛媛県西予市・広瀬稔代表)が滑り台・ブランコ・回転具の3つを寄贈した。

2校目は「ブレイトベン小学校」(コンボンスプー県ボーセット郡・生徒数11238人)、「国際ソロプチミスト安城」様(愛知県安城市)が滑り台とブランコを寄贈、生徒全員に学用品セットを差し上げた。



「カンボジア教育支援西予」様寄贈



「国際ソロプチミスト安城」様寄贈

佐々木英介理事がカンボジア訪問

10月15日～25日、



佐々木理事

佐々木英介理事(東京都在住の里親会員)がカンボジアを訪問、里子訪問などの会活動に参加した。22日にはプノンペンからシエムリアップに移動、25日には次の訪問地、ベトナムに向け出発した。

石川さん一行がカンボジア訪問

10月22日～10月27日、石川さん(愛知県在住の寄付協力者)とその友人の永井さん、村田さん(青森県在住の里親会員)の3名がカンボジアを訪問した。

一行はレンタカーを借り、石川さんが校舎や図書館等を寄贈した2つの小学校を訪問、生徒や村人と交流し学用品セットを差し上げた。

村田さんは里子訪問し5年ぶりに里子に会い、成長の早さに驚いていた。

石川桂さん

カンボジアに行ってきました！



五井瑞枝さんがカンボジア訪問

10月16日～22日、五



五井瑞枝さん

井瑞枝さん(神奈川県在住の里親会員)がカンボジアを訪問し、里子訪問などの会活動を行った。10月16日～21日は、現地スタッフが里親からの支援金や一部里子へのプレゼントを届ける週間になっていて、五井さんと佐々木理事が現地スタッフとともに、里子訪問してくれた。

平古場副理事長と及川副理事長がカンボジア訪問

11月9日～24

日、平古場副理事長と及川副理事長がカンボジアを訪問、2つの小学校で出前授業を行った。映像を用いた生徒たちに日本を紹介、音楽指導も行った。

平古場副理事長は前回に続いて柔道指導を行い、里子訪問を行った。



出前授業で生徒に学用品を差し上げました

桜井さん、鶴見さんがカンボジア訪問



桜井さんと鶴見さん

11月7日、カンボジアに滞在中の桜井さん、鶴見さんが「ソムブル小学校」(コンボンスプー県)を訪問、衣料品などを生徒たちに届けた。お二人は根岸理事長の個人的知り合いだが、この機会に会員になり、来年も訪問して小学校に遊具を寄贈したいと意気込んでいた。

旧夢ホーム利用者2人が高校卒業試験に合格

3年前に閉園した児童養護施設「夢ホーム」、大半の児童は高校を卒業して巣立ったが、年齢が若い2人のみ、本会の教育支援を受けながら夢ホームの外にあるレストランで働き、そこに居候しながら近所の高校に通っていた。

この程高校の卒業試験が行われ2人とも合格、めでたく卒業することができた。卒後の進路は未定だが、立派に社会自立してほしい。

旧夢ホームに関わる教育支援が全て終了した。



高校卒業おめでとう

村の子どもたちにぬいぐるみ等を寄贈

前号でお知らせしたように、ぬいぐるみや衣料品などを収納したダンボール箱(12箱)を船便で現地に送り、9月に到着した。

今回のカンボジア訪問で根岸理事長らがカンボジアの村を回り、子どもたちにぬいぐるみや衣料品、雑貨などをお届けしとても喜ばれた。



村の子どもたちにぬいぐるみ

お盆と水祭り



豪華な船

10月13日～15日、カンボジアお盆(プチュンバン)が行われた。国民の多くが仏教徒のカンボジア、正装して近所のお寺を訪問、食べ物とお金を寄進し、僧侶から読経してもらった。

11月26日～28日、カンボジア全土で水祭りの行事が行われた。中でも首都プノンペンの水祭りは規模が大きく、ボート競走や豪華な舟でにぎわった。

中村善信さんが治療を終えカンボジアに復帰



中村さんを訪問

昨年プノンペン市内で交通事故に遭って重傷を負い、日本に帰国して治療に専念していた中村善信さん、この程治療が終えてプノンペンに戻った。まだ完治していないものの喫茶店を再開したので、数名で訪問し回復を祝った。

中村さんは、本会の会報にカンボジアの様子を毎月投稿しており、帰国で一時中断したが前号より再開した。

里子へのプレゼントは 随時受け付けています

- 国内では円安、現地カンボジアにおきましては物価が高騰しておりますので、やむを得ず里子へのプレゼント代を今年から下記の通りに値上げさせていただきます。どうぞご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。
- 事務局に届いた里子プレゼントにつきましては、年2回程度になりますが、空港から持参させて頂きます。暫くお時間を頂きますので、なるべく海外送金可能な現金をお送りください。
(里子への手紙はメールで現地に送らせていただきます)

現地購入品目一覧表(振込票にてご送金お願いいたします)

- 自転車(中古品) 9,500円
- お米(50キロ入り) 5,500円
- 通学用カバン 3,500円
- ティシャツ2枚&サンダルセット 2,500円
- お菓子セット(お菓子の詰め合わせ) 1,500円
- 文房具セット(ノート、筆記用具類) 1,500円

※上記の代金は、現地での物品調達や里子に届けるための車代(ガソリン代)等の諸経費として、原価に10%を上乗せしております。

※里親様が現地に行き、里子にプレゼントを直接届ける場合は、原価での購入になります。

里子への教育支援金を 隔月に届けています

本会のカンボジア事務所では現地スタッフ、教育里子が通学する小学校(25校)を隔月に訪問、教育里親様より頂戴した年会費の中から6回に分け、米ドルに換金して教育支援金を届けている。

中学校、高等学校に通う教育里子も出身校の小学校に集まり、支援金を受け取っている。

12月4日~12月9日の間に10月分と11月分を、2人の現地スタッフ(ドライバー含む)が各学校を回り、教育支援金と里親さんからのプレゼントなどを届けた。



サムバッドウドン小学校にて



元気な里子たち

写真: 左から

ソムライ・ダリンちゃん

(支援者=鹿住様)

チャンター・ダリンちゃん

(支援者=増田様)

ケーキ・スレイニットちゃん

(支援者=スズキ製作所様)

ユーン・ピセット君

(支援者=長谷川様)

ジェン・ヴィサール君

(支援者=中川様)

ヴォッティー・ソムナーン君

(支援者=安齋様)

ホン・キムヒアン君

(支援者=越部様)

<学校名=チアシム小学校>

クメール教育里親基金活動レポート

本会では、病气や事故、親の離婚などにより両親や片親をなくしたり、親がいても貧しい家庭環境にあるカンボジアの子どもたちが安心して学ぶことができるよう、2003年に「クメール教育里親基金」を創設、現在240人(11月末日現在)の子どもたちを教育支援している。

カンボジアの小・中・高校では、前年より一カ月早く、12月に新学期が開始された。コロナ禍で遅れたが、従前の11月新学期に一步近づいた様子だ。里子たちも元気に新学期を迎え、新たな気持ちで通学を開始した。

投稿 シェムリアップの新空港を早速利用してみました

理事 佐々木 英介 (東京都在住・里親会員)



シェムリアップ新空港

昨年の11月16日に、シェムリアップの新空港である「シェムリアップ・アンコール国際空港」が開港し、それに伴い、これまで利用されてきた「シェムリアップ国際空港」は閉港となりました。

以前の空港は、中心部から近い北西へ約8km程のところにありましたが、新空港は東へ50km程の場所に移設され、乗用車でも1時間以上かかります。

開港に伴い、市の中心部を結ぶ空港バスも片道8ドルの運賃で運行されてはいるものの、1日4往復しかなく更にチケットの販売時間も新空港では10時から18時、市内でも10時から18時となっ

ているので、航空機の発着時間によっては利用できません。

空港と市内へのアクセスは他にも乗用車やミニバスが用意されていますが、通常乗用車は片道35ドル、ミニバスは40ドル、更に深夜料金は40ドル、45ドルと、それらが一律料金として決まっているようで、バスに比べてとても高いです。

また、市内からだと、PassAppやGrabなどの配車アプリが使えるかもしれませんが、空港からだと、周辺はまだ何もかも草原が広がっている状態なので、それらの利用は期待できそうにありません。

私はその開港から約1週間後に空港行きのバスを利用しましたが、その時点で切符売り場・乗車場は共に国立博物館から南方へ歩いて10分程のところにあるCDF(免税店)にあり、そこ以外からは乗車できませんでした。が、逆に空港からだと市内ではMarko⇒CDF⇒アンコールマーケットの3箇所に停車するようです。

さて、肝心のその新空港ですが、新たに開港した空港にしては規模が小さくこじんまりとした印象です。国際線のチェックインカウンターだけでも、羽田空港の国内便のそれよりもかなり少ない印象で、更に半分以上はまだ仕切られていて、使われる様子はありません。

また保安検査場から搭乗口に至るまでの通路も今は免税店やレストランの数も少なく、現在カバーが掛けられている店舗空間に、これから色々な種類の店が入ることになりそうです。

出発ロビーに行くと、どこかの空港にもあるような樹脂製ベンチが並べられていますが、新空港にしてはスマホやPCなどの充電設備がそれらに備わっていません。

トイレにしてもウォシュレットではなくホースで洗う方式ですし、この状況から推測すると、工期の延長に伴って費用も増大し、設備にかかる資金が不足したまま大急ぎで開港したという印象です。

今後利用客からの要望その他で、空港アクセスを含む諸問題は時間をかけて少しずつ改善していくことでしょうか、当分の間は以前の空港を懐かしむ声が多方から聞こえてきそうです。

投稿 各地に博物館がたくさんあります

中村善信 (プノンペン在住、喫茶店経営)

シェムリアップにある「アンコール国立博物館」のお話です。アンコールワットに来られる機会があれば、古代クメール王朝の遺跡廻りと共に「アンコール国立博物館」にも行かれるのをお勧めします。

館内には、遺跡説明の為のビデオ上映室もあります。また、レプリカ(模造品)もありますが、展示物は本物がたくさんあります。

首都プノンペンには、王宮の近くに博物館があります。シェムリアップ以外にも、コンボントムやタケオの博物館も充実しています。

詳しい内容は私のブログ「なかやんのプノンペン滞在記」の11月22日に詳しく書いています。



国立博物館にある彫像

投稿 ポルポト時代を日本で生き延びた カンボジア男性の話(4)

副理事長 及川 英博 (岩手県奥州市在住・里親会員)

一九九三年、十九年ぶりにカンボジアに戻ったメイ氏は、ティニカさんはじめ内戦で生き延びた家族と再会し、カンボジアの復興に力を尽くしたいという思いを強くした。二〇〇八年には国連を退職し、カンボジアに定住することに決めた。

ティニカさんは「それが人生で一番うれしい出来事だった」と話す。それからのメイ氏は、国家復興経済評議員会のエコノミストとして、カンボジア政府の金融政策や農業政策を作ってきた。

王立プノンペン大学の理事長となり、長年手がけてきたカンボジア伝統産業である養蚕業の復興も今年、産官学連携事業として同大学内に設立された「シルクセンター」に結実した。

メイ氏にとって、自分を国外に送り出した国は消滅したけれど、家族のきずなは国家には断ち切ることはできなかった。

忘れようとした国へ、そして家族へ、メイ氏は何年もかけて戻ってきたのも、命がけで家族を守ろうとした父と母の願いが導いたからなのではないか。

「走れ、そして生きろ」。異国でたった一人で生きてきたメイ氏にも、母のこの思いは伝わっていたのだろう。(おわり)



講演するメイ氏

投稿 老い、おい、オイ!(3)

今 紀子 (東京都在住 会員)

若かりし頃、職場では毎年健康診断があり、心電図はいつも再診だった。けれど、特に自覚症状もなかったし、そのままにしておいたのだ。そのつげがまわって来たのだと思った。ついでに言えば、私の父親は、私が二歳の時亡くなっている。心臓系の病氣らしかった。

この際、先生のおっしゃる事を聞いた方がいいかもしれない。手術を受けることにした。

入院の前日、唾液検査をし、コロナ菌を調べる。幸い陰性で予定通り入院が決まった。

大きな病院なのでコンビニがあり、入院に必要なものは買えるし、ネマキなどはレンタルできる。都会の病院は便利だ。

入院後は、面会禁止である。友人たちが、必要な物があったら届けるよと言ってくれた。感謝!感謝!

私が入った病室は、十一月に入院した時と偶然同じだった。

十一月入院した時、同室のSさんと親しくなった。彼女は「難病」と言っただけで、自分の病と気長につきあって行くつもりらしかった。

その頃、研修生が複数いらっやっていてどの研修生も「Sさん」と言いながら病室に入って来た。明るい彼女は、みんなの人気者だった。

二月、同じ病室だったけれど、彼女の姿がない。病室がかわったのか、あるいは帰宅をゆるされたのか。

私自身も病室がかわった為、とうとう彼女に会うことはかなわなかった。

まさに「一期一会」。

もう二度と会うことのないSさん。どうぞ、おすこやかに。(続く)

本会の会員状況をお知らせいたします

(2023年11月末日現在)

●教育里親会員

●個人会員

●団体会員

●寄付協力者(随時)

合 計

181名

66名

10団体

59名

316名

書き損じハガキ・未使用切手

・商品券等をお送りくださいませ

本会では、書き損じハガキ・未使用の切手やビール券やデパートの商品券を集め、活動資金にしております。皆様の家に眠っているものがございましたら、ぜひ、ご協力くださいますよう、よろしくお願い致します。普通郵便で事務局へお送りください。

事務局便り

3月20日〜4月16日(4週間)、根岸理事長他役員・会員がカンボジアを訪問する予定です。訪問を希望する会員の皆様、特に空港からカンボジア到着まで一人では不安の方はご相談ください。同行のお約束は難しいですが、スケジュール調整して不安の解消に努めます。

03-3991-2854

または080-4144-2662

(理事長携帯)

次号の会報でも、昨年10月〜11月のカンボジア訪問を詳細にレポートいたします。楽しみにお待ちください。3月中旬頃に発行予定です。

今年の定期総会は、カンボジア渡航終了後の4月27日土日に開催を予定しています。3月下旬頃には総会資料を郵送しますので、よろしくお願い致します。オンラインでの開催になります。

新しい年を迎えました。今年こそ世界が平和になりますよう祈るばかりです。

活動に参加しませんか

正会員として

教育里親会員(年額3万円)

子どもたちへ直接払う年額

1万2千6百円(42%)

会の運営に回す年額

1万7千4百円(58%)

個人会員(年額5千円)

団体会員(年額1万円)

寄付金

当会の活動に賛同いただける方からの寄付金も受付しております。

会費・寄付金の送付は、銀行振込、郵便振替、現金書留で。

【口座名】

21世紀のカンボジアを支援する会

【ゆづちよ銀行】

019支店 当座 0160916

【りそな銀行】

練馬支店 普通 4098235

●ゆづちよ銀行の自動引き落としをご希望の方は事務局へご連絡ください。

●会員の皆様には、隔月発行する本会の会報「アンコールワット」を発行の都度郵送します。

春さんのカンボジアレポート

～山本日本語教育センターの山本宗雄氏が逝去～

カンボジア・シェムリアップの「山本日本語教育センター」の山本宗雄氏が10月9日朝、シェムリアップで亡くなられました。1929年1月7日生まれの94歳でした。

山本氏は、貧しい学生や女性を助けるために、無料の教育を提供する言語学習センターを1996年に設立し、日本語教師、観光ガイド、旅行会社スタッフ、翻訳者などの人材育成に貢献されました。

また、「HCアンコールツアーエージェンシー」の設立を通じてカンボジアの観光産業に貢献され、シェムリアップの数十の地区に学校を建設し、何千もの井戸の建設を支援されました。

国会議員セアン・ナム氏は「山本日本語教育センターは1996年7月26日に発足し、シェムリアップに住む若いカンボジア人が日本語を学び、日本語ツアーガイドとして熟練できるようになりました」と述べ、卒業生であるオダー・ミンチェイ州警察署長のフォット・ソシー少将は「カンボジアの人的資源育成の先駆者であり、礼儀正しく寛大な山本氏の死を深く遺憾に思う。今の私を作ってくれた山本氏に感謝しています」と述べています。

※シェムリアップの老舗の「123日本語教室」は、1995年に設立されています。

写真出典: Khmer Times

理事・里親会員 鈴木春男(カンボジア・シェムリアップ在住)

山本宗雄氏

オンライン情報交換会を毎月開催

オンライン情報交換会

本会では、カンボジア在住の日本人や現地スタッフの協力のもと、現地情報をオンラインで紹介する「カンボジア情報交換会」を、必要に応じて随時開催しています。

入室・退室は自由ですので、お気軽に都合良い時間帯にご参加ください。参加希望者にはZoomのIDとパスコードを事務局より事前に送ります。

また、Zoomに不慣れの方には事務局より操作を指導いたします。

懐かしき1枚

20年前、2003年3月に行われたカンボジア訪問の旅。故人となられた武藤先生ご夫妻が、本会として初の小学校校舎を2校寄贈してくれました。懐かしい面々ですが、すでにメンバーの3分の1が他界されました。歴史を感じます。

武藤先生ご夫妻が寄贈した校舎の前で

投稿

カンボジア独立70年に思うこと(4)

理事長 根岸 恒次

ベトナム戦争が始まるとシハヌーク首相は、南ベトナム解放戦線(ベトコン)がカンボジア領土内に入ることを容認、南ベトナム及びアメリカとの関係が悪化した。そして1965年、カンボジアはアメリカとの国交を断絶するに至った。

そこでアメリカは1970年、ロン・ノル將軍によるクーデターを成功させる。外遊に出ていたシハヌーク首相は帰る場所を失い中国の周恩来首相の下に身を寄せたが、中国はこの機会にシハヌーク首相と敵対関係にあったクメール・ルージュを和解させ、シハヌーク首相を首班とする連合政権を設立させた。

一方アメリカの援助で政権を握ったロン・ノル政権は、アメリカの多大な援助を受け、政府内部や軍部で私腹を肥やすことに夢中になり、政府に対する国民の反感が広がるに連れてクメール・ルージュの解放区が広がっていった。1975年4月、北ベトナムの支援を受けたクメール・ルージュ軍がカンボジアの首都プノンペンを陥落させ、ポルポト政権が樹立してロン・ノル政権が崩壊した。

中国の文化大革命の影響を受けたポル・ポト政権は国内で無謀な共産主義革命を試みようとし、反対する人はすべて「反革命分子」だとみなされた。プノンペンにいた市民は「反革命分子」の恐れがあると、農村に強制移住させられた。

ポル・ポト政権内部の権力争いも激しく、ポル・ポトにより反対派が次々粛清され、最後にはポル・ポトの血縁者だけが政権内に残るという始末であった。

1975年4月から1979年1月までの間に殺されたり、飢餓や重労働で死亡した人数は100万人〜200万人といわれ、実数の把握ができていない。

1979年1月、ポル・ポト政権内部にいたフン・セン(前首相)らがベトナム軍を先導してプノンペンに入り新政権が誕生、ポル・ポト政権が崩壊した。

新政権が樹立されたが、カンボジア国内には4つの勢力が対立したまま残されていた。プノンペン新政権(人民党)、シハヌーク派、ソン・サン派、クメール・ルージュだ。4つの派が入り乱れて、内戦が行われた。

1990年、紛争当事者による東京会議が行われ、続く1991年には、「国際連合カンボジア暫定統治機構」の設置、武装解除と内戦の終結、難民の帰還などを含む「カンボジア和平パリ協定」が19ヶ国により調印され、20年に及ぶカンボジア内戦が終結した。(つづく)

教育里親会員 入会申込書

年 月 日

氏名	ふりがな	生年月日	年 月 日
住所	〒 (TEL)		
備考	1. サポートして下さる子どもの人数 [] 人 2. サポートして下さる子どもの性別 ① 男の子 ② 女の子 ③ どちらでも 3. その他 [具体的に]		

*入会して下さる方は所定の事項をご記入のうえ、本会事務局までお送りください。